

## 「祭り」

テーマ	祭り
内容	<p>①日本では年間を通して、各地で「祭り」が行われている。幾つか有名な祭りを紹介し、また「祭り」が日本人にとってどういう意味を持つのかを紹介。</p> <p>例)</p> <p>:神社やお寺で行われることが多い。</p> <p>:伝統として受け継がれている祭りも多いが、中には形だけになってしまい、意味が薄れ、イベントになっている祭りも多い。</p> <p>:その地域の住民の心を一体化する作用もある。</p> <p>*配布資料 A 「日本の祭りの起源」</p> <p>*配布資料 B 「夏祭りに関するアンケート」</p> <p>*参考資料 「祇園祭」「御柱祭」</p> <p>その後、学生に自分たちの国にどのような祭りがあるかを紹介してもらおう。</p> <p><u>世界の祭り</u></p> <p>⇒その国の学生に簡単に説明してもらおう *〔目的やどんなことをするかなど〕</p> <p>特に共通の祭り(旧正月の祭り)がある学生には「相違点」「共通点」なども比較してもらおう</p> <p>*配布資料 C 「祭りタスクシート」</p>

### \*配布資料 A

#### 日本の祭りの起源

日本の祭りは、人々が神と共に飲み食いし、音楽や芸などを楽しむ、というものが原形でした。神と人間が共に楽しむことによって、人々がそれを生きる活力にしようとしていた、という説があります。

「人々が協力しあって労働をすることによって、神の助けも得られる」という思想のもと、神と人々が協力して稲を育てることで、国の安泰がもたらされる、と考えられたのです。

#### 神道における祭りの単位

神道には、「個人個人が自由に神を祀る」という考えが基本にあります。それが発展した先には「家」単位での祭りがあり、さらにその先には「集落（地域）」単位での祭りがあります。

縄文～弥生時代はじめ頃の人々は、親類縁者で構成された集落を生活拠点とし、祭りの際には集落の皆で神を祀る儀式を行っていました。

その後、弥生時代の半ば頃から農業で結びついた共同体ごとに小さな国が作られ、小国単位での祭りが行なわれるようになります。

(※1984年、「二世紀半ばの出雲首長たちが集まり、神の祭りをした痕跡」が見つかります(島根県斐川町荒神谷遺跡)。そこから 358 本の銅剣が出土したのですが、その本

数が「出雲国風土記」という奈良時代の地誌が記す出雲国の神社の数とほぼ一致していました。この事から、二世紀半ばに出雲の首長たちが1人につき1本ずつの銅剣を持ち寄って、荒神谷で祭りを行っていたのではないかと推測されています。)

そして、8世紀には大和朝廷が国内を統一するに至りますが、朝廷が司る「国家の祭り」は政治的な意味合いが強かったため、集落・小国単位では豊作を祈って神を祀る行事は引き続き行われていきました。

### 重要視される「祖先の祭り」

弥生時代、農耕生活が始まるようになると「家」の存在が大きくなり、祖霊信仰が強まっていきます。亡くなった祖先の霊を、「その家を守り、繁栄をもたらす神」として崇拝するこの信仰が広まったことによって、人々の中に「祖先が苦勞して開墾した土地と水田があるからこそ、今、自分たちが安定して生きられる」という感謝の念が生まれてきました。こうして、祖先を祀る祭りがだんだんと重んじられるようになっていったと考えられています。

<http://www.shintoism.jp/index.html> 「神道 日本の伝統を継承し、次の世代へ繋ぐ知恵」より抜粋



<http://photohito.com/photo/577036/> 「PHOTOHITO」

\*配布資料 B「夏祭りに関するアンケート」

夏祭りについて買ってしまう食べ物や日程の調べ方、行ってみたい祭りなどについて、調査結果をまとめました。

～94%が行ったことがある「夏祭り」。80%以上が「好き」～

■夏祭りは好きですか？

「夏祭りは好きですか」と尋ねたところ、“まあまあ好き”58.5%が最も多く、次いで“大好き”26.8%であった。80%以上の人が『好き』と回答し、

“大嫌い”と回答したのは全体の1.3%であった。＜性年代別＞

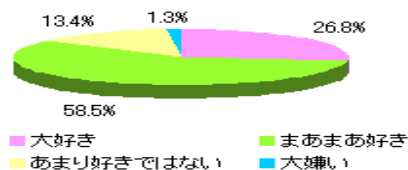
性年代別の回答では、“大好き”と回答した人が最も多かったのは10代以下女性54.9%、最も少なかったのは60代以上男性14.7%であった。

10代以下男性を除くと年代が上になるにつれ“大好き”と回答した人は少なかった。また、すべての年代で男性よりも女性の方が“大好き”と回答した人は多かった。

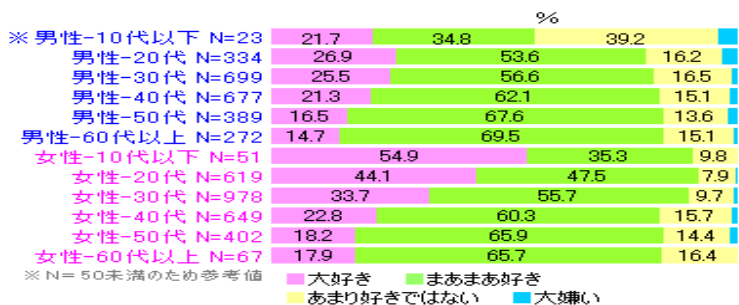
10代以下男性を除くすべての年代で80%以上の人々が『好き』と回答したが、10代以下男性で『好き』と回答したのは56.5%であった。

夏祭りは好きですか。(単一回答)

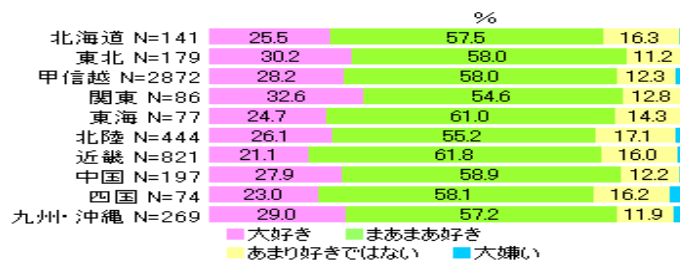
全体ベース N=5160



◆性年代別

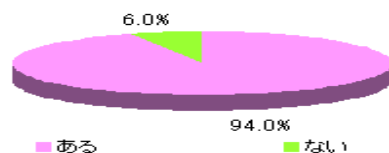


◆地域別

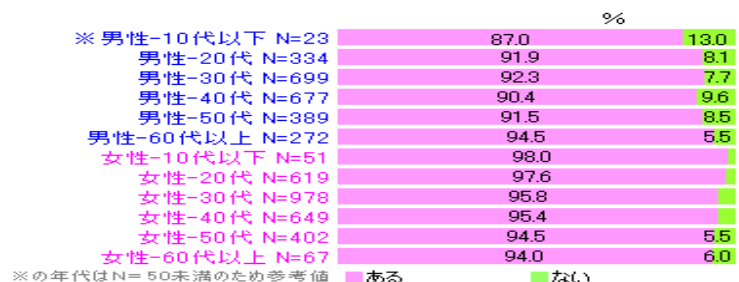


夏祭りに行ったことはありますか。(単一回答) ※花火大会は除く

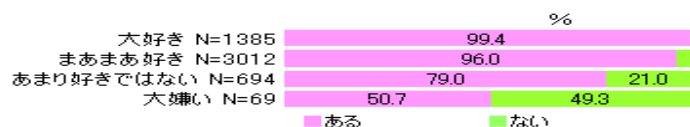
全体ベース N=5160



◆性年代別



◆夏祭りの好感度別



■夏祭りに行ったことは？

「夏祭りに行ったことはありますか」と尋ねたところ、94.0%の人が行ったことが“ある”と回答し、行ったことが“ない”のは6.0%であった。

<性年代別>

性年代別の回答では、行ったことが“ある”と回答した人が最も多かったのは10代以下女性98.0%、最も少なかったのは10代以下男性87.0%であった。

10代以下男性を除くすべての年代で90%以上の人が行ったことが“ある”と回答した。

また、女性はすべての年代で行ったことが“ある”と人は94%以上であった。

<夏祭りの好感度別>

夏祭りの好感度別の回答では、夏祭りが「大好き」と回答した人は99.4%の人が夏祭りに行ったことが“ある”と回答した。

好感度が高い人ほど行ったことが“ある”人は多かったが、「大嫌い」と回答した人でも半分以上の50.7%の人は行ったことが“ある”と回答した。

～行ってみたい、また行きたい祭は？ 「ねぶた祭り」、「よさこい祭り」、「だんじり祭り」～

■夏のイベントについて

全員(N=5160)に「次の中で知っているイベントはありますか」と尋ねたところ、“ねぶた(ねぶた)祭り【青森県】”が91.9%で最も多く、

次いで“祇園祭【京都府】”86.3%、“阿波踊り【徳島県】”86.1%であった。

「行ってみたい/また行きたいと思うイベント」と尋ねたところ、最も多かったのは“ねぶた(ねぶた)祭り【青森県】”51.2%、

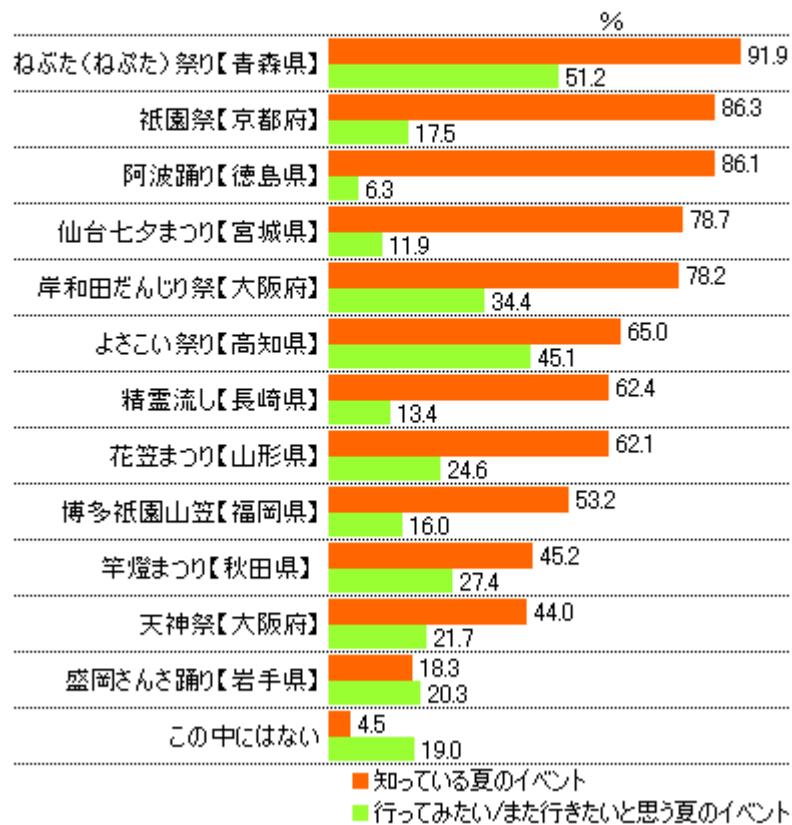
次いで“よさこい祭り【高知県】”45.1%、“岸和田だんじり祭【大阪府】”34.4%であった。

“阿波踊り【徳島県】”は全体で3番目に多い86.1%の人が「知っている」と回答したのに対し、「行ってみたい/また行きたい」と回答した人は6.3%であった。

「行ってみたい/また行きたい」と回答した人が「知っている」と回答した人の半分以上であったイベントは“ねぶた(ねぶた)祭り【青森県】”、

“よさこい祭り【高知県】”、“竿燈まつり【秋田県】”、“盛岡さんさ踊り【岩手県】”の4つであった。

次の中で知っている夏のイベントは？  
 また、行ってみたい/また行きたいと思う夏のイベントはありますか？(複数回答)  
 全体ベース N=5160



<http://reposen.jp/394/12/23.html> 「レポセン 夏祭りに関するアンケート」より抜粋

\*参考資料

祇園祭（京都）



<http://osamc.seesaa.net/article/123872817.html>



<http://osamc.seesaa.net/upload/detail/image/B5C0B1E0BAD7A4EAA3B2-thumbnaill2.jpg.html>

祇園祭の由来と歴史

平安時代前期の869(貞観11)年、京で疫病が流行した際、広大な庭園だった神泉苑(中京区)に、当時の国の数にちなんで66本の鉾を立て、祇園の神(スサノオノミコト)を迎えて災厄が取り除かれるよう祈ったことが始まりとされる。

応仁の乱(1467-77年)で祭りは途絶えたが、1500(明応9)年に町衆の手で再興された。以後、中国やペルシャ、ベルギーなどからもたらされたタペストリーなどを各山鉾に飾るようになった。これらの懸装品の豪華さゆえに、山鉾は「動く美術館」とも呼ばれる。江戸時代にも火災に見舞われたが、町衆の力によって祭りの伝統は現代まで守られている。現在、巡行に参加している鉾は9基、山は23基だ。

<http://www.kyoto-np.co.jp/kp/koto/gion/gion.php?mode=h> 「京都新聞電子版 祇園祭とは」より



\*参考資料

御柱祭



<http://www.onbashira.jp/about/agenda.html>

一御柱祭の由来一

信州・諏訪大社では七年に一度の寅と申の年に宝殿を新築し、社殿の四隅にあるモミの大木を建て替える祭りを行います。この祭りを「式年造営御柱大祭」、通称「御柱祭」と呼び、諏訪地方の6市町村21万人の氏子がこぞって参加する天下の大祭です。諏訪大社は上社と下社に分かれ、諏訪市に上社本宮、茅野市に上社前宮があり、下諏訪町に下社春宮と下社秋宮があります。祭神として建御名方神と八坂刀売神を祀り、東国第一の軍神として坂上田村麻呂や源頼朝、武田信玄、徳川家康らの崇敬を集めました。現在では全国に1万社以上の分社があるといわれています。

御柱祭がいつから行われているのか定かではありませんが、室町時代の『諏方大明神画詞』という記録に、平安初期の桓武天皇（781～806）の時代に「寅・申の干支に当社造営あり」とあるのが最初の記録で、起源はさらに遡るともいわれています。祭りでは、長さ約17m、直径1m余り、重さ10トンを超える巨木を山から切り出し、人力のみで各神社までの道中を曳いて、最後に社殿を囲むように四隅に建てます。柱を山から里へと曳き出す「山出し」が4月に、神社までの道中を曳き、御柱を各社殿四隅に建てる「里曳き」が5月に、上社・下社それぞれで行われます。諏訪の人々は氏子として全精力を注いで16本（4社×4本）の柱を地区ごとに担当するのです。秋には諏訪地方の各地区にある神社（小宮）でも御柱祭が行われるため、一年を通して盛り上がります。

<http://www.onbashira.jp/about/index.html> 「御柱祭 公式ホームページ」より



\*配布資料 C 「祭りタスクシート」

あなたの国の祭り



名前は？	いつ？	目的は？	どんなことをする？
			
			